



町に関係する話題など広報係が取材したできごとをご紹介します。

仮設に“デザイン”と“潤い”の目印を

球磨工業高校生徒と隈研吾氏による植栽ボックス贈呈

テクノ仮設団地で8月27日、6種類の苗木と植栽ボックスが贈呈されました。

植栽ボックスは、建築家である隈研吾氏の指導のもと、球磨工業高校伝統建築科の生徒たちが作製したもので、単調な風景の同団地を少しでも華やかにし、各通りが区別しやすいようにという思いが込められています。

隈氏は、「一人一人の手の温もりが感じられるデザインになりました。人間的な温かさが少しでも住民の皆さんに伝わればと思います」と話しました。



植栽ボックスを囲む、隈氏と同校生徒、住民たち



多くの観客の前でも落ち着いた発表を披露しました

童話の世界を精一杯表現

児童による童話発表大会開催

9月4日、益城中央小学校で第44回児童による童話発表会が開催されました。

今大会には、町内の各小学校から各2人、計10人の代表が出場しました。児童たちは、主人公になりきり、ところどころに身振り手振りを交じえながら、精一杯に童話の世界を表現しました。審査の結果、益城中央小6年の渡邊凜さんと広安西小6年の道山葵依さんが最優秀賞を受賞。道山さんは同月8日に行われた郡大会でも最優秀賞に輝き、県大会出場を決めました。

子どもたちの探究心を支えるために

町教育委員会がお茶の水女子大学と相互協力協定

9月6日、町教育委員会と国立大学法人お茶の水女子大学が、相互協力に関する協定を締結しました。

これは、主に子どもたちの理科教育に関する支援を目的とするもので、同大学が東日本大震災で行ってきた実績をもとに実施するものです。

千葉和義副学長は、「実験や観察など、スペースの必要な理科教育は、理科教室や実験器具が被災した状況ではなかなか実施が難しい。簡単なキットなどを利用し、少しでも理科教育を支援できれば」と話しました。



自身も理系出身の千葉副学長(左)と酒井教育長

Best Smile
今月のベスト笑顔

